



平成28年9月22日 秋の茶会にお手伝い頂いた方岡田ふみ代さん、福井光子さん、牧野亜紀子さん、大木徳子さん、大木祐子さん

十夜法要

浄土宗の法要のひとつに「十夜法要」があります。本来は十日十夜勤めることから、その名があります。

『無量寿経』の中に「この世において十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間善行をすることよりも尊い」と説かれてことにもとづいて行われます。

ここで説かれている「善行」とは、念仏を称えることです。

念仏は、仏教で説かれるいろいろな修行の中でも、最も勝れた行、最善の行なのです。

普仙寺の十夜法要は毎年10月8日に行います。

帰敬式

新たに仏教の信者になる儀式を帰敬式ききょうしきといいます。

結婚などで新たに家族になられた方に、普仙寺の檀信徒として、本尊様にお参りして頂きたいと思い、御案内したところ、杉浦英夫さん、杉浦和子さん、加藤千恵夫さんの参加を頂きました。



平成28年9月22日帰敬式 住職と帰敬式参加者の記念写真

帰敬証授与

去る9月22日に行われました帰敬式では、住職より、普仙寺の歴史、普仙寺の本堂内の仏様、焼香の仕方、数珠の持ち方、念仏の称え方のお話があり、最後に帰敬証が参加者に授与されました。



平成28年9月22日帰敬式 住職から帰敬証を授与される参加者

住職の短歌

平成27年に詠んだ短歌の続き([前回](#)は平成28年4月号)を掲載します。

名月に薄里芋栗供え二十七年一夜を過ごす

秋の日の二十七年知恩院猊下口元和讃に合わず

十月の真澄の空の富士山が朝日を受けて喜悅している

光明寺晋山式の念仏は太鼓雲盤僧俗の声

秋の夜マリンタワーの窓の外港横浜光にぎやか

庭先の千日草は小丸花赤紫の色が可愛い

鎌倉の十夜法要光明寺野上上人導師堂々

鱗雲背にした秋の伊吹山真昼の時の姿もいいね

蓮華寺の開創千と四百の記念法要みんなの笑顔

紫の小粒斑点杜鵑草そっと咲いてる秋の坂道

玄関に秋明菊の花二輪花びら白く丸み優しい

石路の黄色の花が冴えている君と歩いた京都の小道

秋日和伏見の町の源空寺詠唱人と参拝をする

小松谷正林寺には子供達迎いの時刻親達も来る

栗生の町紅葉前の光明寺大阪講の詠歌額見る

秋晴れの京都嵯峨野の法然寺住職語る蓮生法師

二尊院本堂工事槌の音我等は和して詠歌唱える

寺町をそぞろ歩いて誓願寺帰りの道も何故か楽しい

大原の勝林院の堂内で詠歌唱えて舞を奉納

山茶花の朱色の花が笑ってる秋の陽だまり遊んで行こう

十二月ポインセチアの赤がいいランチで行った喫茶の窓辺

豊田市の福祉センター会場に三河の人が詠歌奉納

ロビーには赤紫のシクラメン君は笑顔で綺麗と言った

十二月灰色雲を背景に伊吹の山は褐色の肌

冬晴れの滋賀の平野の田畑には麦の若芽と耕耘の畝

牡蠣フライ初めはレモンそのあとはタルタルソースたっぷりつけて

クリスマス子供の頃の思い出を懐かしんでる今日の一日

水仙の白と黄色の花を見て君と過ごした冬思い出す

秋の茶会

9月22日、秋彼岸法要の日に檀信徒会館にて秋の茶会を開催しました。華頂婦人会の役員の方が、お運び、お手前をして頂きました。ありがとうございました。



平成28年9月22日秋の茶会で、抹茶を飲まれている檀信徒の皆さん

寺行事案内

土曜礼拝 どうらいはい

毎週土曜日午前8時30分～9時

礼拝を含むお勤めです。本家、新家の別なく、どなたでもお参り下さい。

◇内容

1. 浄土日常勤行式
2. 法然上人御法語拝読
3. 住職の法話

◇法然上人御法語の予定

- 前編第20章 難修観法
- 前編第21章 精進

- 前編第22章 無常迅速
- 前編第23章 一枚起請文

月並法要つきなみほうよう

平成28年11月8日(火)午後7時より

月に一度、檀信徒の皆様でお参りする法要です。どなたでもお参り下さい。
法要中、年回忌の祥月にあたる方のご回向もいたします。

◇内容

1. 浄土日常勤行式
2. 一枚起請文拝読
3. 詠唱奉納
4. 住職の法話